

## 授業改善書

科目名	法学入門（火・3）
担当者	宮島 薫

### 授業の概要

2008年度秋期より、非常勤講師として埼玉学園大学にて授業の担当をさせていただいておりますが、現在は法学入門、民法の2科目の担当をさせていただいております。法学入門につきましては同一担当者の別教科の履修を済ませているケースもあり、講義の進行の仕方や学習に対する取り組み方など、学生本人たちの方が積極的に行動してくれることもあり、担当者としては講義内容に専念することが可能でこの点は助かっています。教員志望の学生も受講生の中には存在いたしますので、授業のコントロールの仕方についても、担当者としての力量が問われているものと認識しております。わかりやすさ、興味を抱かせる工夫、資料の用い方、時間配分など、自問自答する毎日です。

### 授業の問題点

担当者側からの・授業のいわゆる制度設計としては、1年次の春期に法律に関する科目の導入教育としての「法学入門」の履修を済ませ、そこでのテキストである判例六法の使い方をマスターした者が、個別の具体的な法律科目の授業に進級し、特に国際関係から国内情勢に至るまで、授業の展開を試みてはいますが、例えば、私語に対する指導も授業中の解説中には逆に真剣に授業内容に集中している学生にとっては話の腰を折るようなことにもなりかねず、担当者自身のモチベーションの保ち方も、気をつけねばならない点かもしれません。少人数教育や資格取得という面からも、効率的な教育に対する受講生の側の努力をも期待することも必要かもしれません。正直者が馬鹿を見ないように、という点に尽きるかもしれませんが。自分または自分たちの行動が、他の受講生の眼にはどのように映っているのか、ということも認識してもらう必要があるかもしれません。それは、授業担当者の行動をも含むことは言うまでもないことではあります。

### 授業改善の課題・方策

まずもって、教室は勉強・学習の場である、ということの再確認から始め、大学は自ら学ぼうとする者の集う場であり、かつ卒業後には学生各人がいわゆるプロフェッショナルとして社会から迎えられるような人材を育成する場である、というところから話を始め、そのためにもどのような形で授業に関わりを持つべきなのか、という点にも力点を置こうと心がけています。加えて具体的に書く作業、声に出して読む作業など、自宅で一人でできることと、教室で皆で取り組むことなどメリハリをつけるようにし、授業担当教員が学生一人一人の進歩に立ち会えるようにさまざまな取り組みを心がけています。ある意味、正当なライバル意識などは、学習意欲の向上などに有益な場合も考えられますので、可能な限り多くのチャンスを受講生に提供できるように心がけるようにしています。但し、例えば、もっと個人指導をしてほしい、という意見と、学生と教員の馴れ合い、に見える行為はある意味、表裏一体である可能性も否定はできず、そもそも大学の授業でどこまで個人指導をするべきか、とか、コミュニケーションをとることが苦手な学生を追いかけまわすようなことが、公平・平等の名のもとに出た行為である場合には許されるのか、など、注意すべき点は、教員、学生双方にあると思います。ある点においては、一歩引いたようなスタンスの方が受講する側から見れば「やりやすい」ということも考えられ、この点については授業担当者の空回りにならないように心がけなければいけないことかもしれません。法律を扱う科目である、という科目の特性上、話の内容がとかく窮屈に感じられる可能性は否定はできませんが、かといっていたずらに笑顔を振りまく、というわけにもいかず、将来の社会人としてのもっておいて欲しいマナーの一つではある、という認識をどう伝えるべきか、可能な限りソフトな対応を心がけたいと思います。今回の集計結果によれば、出席「4. 73」→シラバスとの一致度「4. 50」→満足度「4. 35」とあり、これでは出席はしたけれど、シラバス通りだったけれど、面白くはなかったと、とられかねず、自分の方から興味・関心が得られるようにする努力の跡は乏しかったのか、とも見受けられかねません。かつて子供の頃などに自転車に乗れるようになった時、行動半径が広がったように、ある程度の犠牲を伴った努力はいずれ自分を助けることも学んでいただきたいと思います。

### その他

昨今、各大学での取り組みが取り沙汰されております入学前教育や導入教育、多様な学生の入学という観点からの例えば通信制の学校出身者への対応など、授業現場におけるさまざまな注目すべきケースには、専任・非常勤を問わず、学内での情報の共有化と対応の一元化など、今後の検討課題とすべき問題も存在しているかもしれません。健全な学習環境の維持・管理にはこれからも取り組むべき課題があるかもしれません。